

## アルバータ 研修を通じた成果と課題

工学部物質生命化学科 3年真崎葉月

今回の留学では、日本での生活ではできない経験がたくさんできた。日本で生活しているとそれが当たり前になっていたが、一か月海外で生活してみて、日本独自の習慣だったり、日本人の特徴をたくさん発見した。たとえば、日本人はシャイであり、知らない人に話しかけたり、人と違ったことが出来ないと感じた。授業中も積極的に発言が出来ないために授業が進まなかったりすることがあった。この留学を通して、英語力向上には失敗を恐れず積極的に英語を使ってしゃべることが大切であると感じた。このことは英語の学習以外でもいえ、物事は何でもやってみることが大切だと思う。私は留学前の一番の不安要素はホームステイであった。日本人が自分以外いない環境の中できちんとコミュニケーションをとることができるかもすごく不安であった。言っていることを聞き取り、それに応答するために即興で英文を考えることは、最初のほうはとても大変であったがだんだん慣れてきて自然に会話することが出来た。しかし、ホームステイファミリーに日本の事について聞かれたときに答えることが出来ないことがあったため、日本に関する知識をもっと身に付けておくべきだったと感じた。

得られた成果としては、毎日の英語の授業によって、英語のスピーキング、リスニング力が向上した。授業はカナダと自国の文化の違いや国際問題などの内容に絡めたものであったので、英語力の向上だけでなく、カナダの様々な文化を知ることが出来た。さらに、自国である日本について知識を増やし、日本には独自の文化があり、それを英語で説明する能力を身に付けることが出来た。持続可能な社会や食品廃棄についての授業では、問題解決のために自分でできることは何があるかということを考えるきっかけとなり、さらに世界各地で貧困問題や難民問題など様々な問題が存在していることを知った。三週間のホームステイ生活を通して、現地に住む家族と生活を共にすることで、現地の生活スタイルを体験することが出来た。さらに、英語でホームステイファミリーと自力で会話をすることで、リスニング力、スピーキング力、語彙力をつけることが出来た。また、海外で生活することで、海外と日本の生活、分化、人の違いを知った。アルバータ大学の工学部見学を通して、今まで見たことのないような大規模な研究施設を見て、自分もこんな大きな施設で世界規模の研究をしてみたいと思った。特に自分の分野(化学系)について、徹底した衛生管理が印象的であった。



今回の留学で習得した英語力を持続させるために、日本でも英語に積極的に触れる必要があると感じた。そこで、今後留学生ともっと積極的にしゃべったり、英語の学習時間を増やそうと思う。また、今までの学習方法は分法に特化したものであり、分法だけの知識ではしゃべることが出来ないと感じたので、単語の学習はもちろん、実際に声に発しながらの学習が必要であると感じた。同時に、店員などの現地の人と話す中で発音が悪いためにしゃべったことが通じないことがしばしばあったので、発音も意識した学習が必要である。また、今回の留学で自分の日本についての知識不足を感じたので、もっと新聞等を読んだり、歴史の勉強をしたりして、外国の人に日本のことを説明できるようになりたいと思った。外国の人に日本の事について聞かれたときに正確に答えられるようにしたい。